

「どの子ども伸びる授業の改善」

～特別支援教育の視点を生かした授業づくり・Q-Uを取り入れた集団づくり～

I 研究の内容

1 研究の目標

- ・特別支援教育の視点・手法を取り入れた指導方法について研究・実践し、誰もがわかる授業づくりを通して全ての子どもの学力の向上をはかる。
- ・Q-U 検査をもとに学級集団の課題を明らかにし、課題解決の方策を検討・実践することにより、よりよい学級集団づくりをめざす。

2 研究の内容

- (1) 児童の実態把握と指導計画の作成
- (2) ユニバーサルデザインを取り入れた授業実践
- (3) 特別支援教育の視点に立った学習環境の整備
- (4) Q-U検査を活用した集団づくり
- (5) 家庭での学習のあり方・保護者との連携

3 具体的実践

(1) 理論研究

- 学習会 「学校が楽しくなる人間関係づくり」 講師 長尾雅裕先生（甲州市スクールカウンセラー）
学習会 「情報機器の効果的活用法」 講師 中村弘和教諭（教育センター主査・研修主事）

(2) 授業実践 ※（ ）は概要

ア 中学年ブロック

- 第4学年 算数「わり算のしかたを考えよう」 授業者 村田奈緒美 教諭
（2数の倍数関係を用い、答えを求める計算について、具体物や図を用いながら考え、相互に考えを発表し合うことにより理解を深めた。）

イ 高学年ブロック

- 第6学年 道徳「人間はすばらしい」（向上心・個性伸長） 授業者 甘利志賀峰 教諭
（お互いによいところを見つけ合いながら自己肯定感を高めた。また保護者からの手紙も用意し、自分が大切にされていることを実感させた。）

ウ 低学年ブロック

- 第1学年 音楽「いろいろなおとにしたしもう」 授業者 樋 美枝 教諭
（星がきらめく音のイメージを想像しやすくするために大型 TV を用い、場面の様子を提示した。）

エ 中学年ブロック

- 第3学年 特別活動「認め合える学級にしよう」 授業者 渡邊満智子 教諭
（お互いに認め合える学級づくりの一環として、自己肯定感を高めるため、グループエンカウンターの手法を取り入れ、友達のよいところを見つけ、褒め合う活動を行った。）

II 成果と課題

1 成果

- 授業のユニバーサルデザイン化を図ることにより、児童が集中して授業に取り組む場面が増え、学力向上に役立った。教室環境の整備も前面掲示をしないことに加え、それぞれの学級で工夫が見られた。
- 昨年度から引き続き「学びの達人」等、全校で共通理解した学習規律の徹底が図られ、定着してきている。
- 家庭学習についての実態調査や「塩山南小 家庭学習の手引き」を作成・配布したことにより、家庭学習に取り組む児童が増え、学力の向上に役立った。
- Q-Uの分析方法・活用方法を研究し、学級経営に取り入れることにより、よりよい集団づくりが図られた。5月に実施したQ-U検査の結果、学級満足群の児童の割合は全国平均よりも高かったが、11月の検査ではさらに数値が向上した。学年を中心とした取り組みであったが、共通認識のもと指導ができたことで効果が上がった。

2 課題

- 学習規律・家庭学習・集団づくりなど、一定の成果を挙げているが、どれも継続して指導していくことが大切であり、今後も教師が意識しながら指導を続け定着させていきたい。
- Q-Uの分析を夏季休業中に学年単位で行ったが、指導に役立てる意味でも、できるだけ早い時期に、より多くの教師が関わるようなかたちで実施していきたい。
- 学習規律は向上してきているが、生活規律、とくにあいさつは不十分な面が見られる。さらなる向上を図りたい。

III 成果物

Q-Uアンケート 考察及び対応(記入例)

学年	組	児童数	男子	女子	名	計	名	性別
学級課題					対応策・注意点等			
Q-Uアンケートからの課題・考察					対応策・注意点等			
・男子の間でトラブルが多い。とくに10、15、22の児童が関わることが多い。10の児童は半や足を出すこともある。					・学年で共通理解をもちながらさまざまな場面で指導をする。10の児童については保護者にも実態を伝えながら家庭でも連携し、指導していく。 ・子ども達とも話し合いながら生活ルールの徹底を促す。「南小の生活ルール」「学習規律」を周知・活用していく。 ・しっかりできたときはほつよく褒め、達成感をもたせていく。			
・そうじや給食などの取りかからず時間がかる。④や⑤の児童が声かけをよくしているが、寝かしつけが多くなり、身体として時間がかかってしまう。16⑥⑦の児童は当番活動をさげる傾向がある。					・グループでそれぞれに話を聞き、お互いの不都合な点を把握する。協力して遊ぶことや活動を促進していく。			
・女子の間でグループ間の対立が見られる。⑧⑨の児童を中心としたグループと⑩⑪の児童間のトラブルが多い。					・声かけを多くし、どのように行動したらよいか指導していく。日記係を使いながら指導する。			
・7の児童は自己中心的な活動が多く、友達と協力して活動できず、孤立しがちである。								
・もう少し大きな声を出す児童が多く見られる。								
プロット的位置が予想外の児童					対応策・注意点			
・⑫は学級生活満足群にいる。まじめでいろいろな活動によく取り組むが友達が少ないように感じる。 ・⑬は満足群にいても、トラブルが多い。自己主張が強く、比較的年長の意見が通るのである程度満足している					・言葉がきつい面があるので、やさしい言葉かけに心がけるように指導する。 ・生活ルールを徹底していくなかで、自己中心的な活動させないようにする。学級会で「困ったこと」などを話し合い、みんなでルールを確立していく。			

○その後の経過


(前週との比較・個々の実態・成果・課題・今後の取り組みなどを踏まえ)

- ・2回目のQ-U検査の結果、全体的に満足群が増えた。(前週60%→今回75%)
- ・お互いに話し合わせる取り組みを続ける中で女子のグループでの対立が減ってきた。また⑩の児童を中心としたトラブルも見られるが継続して指導を続けていく。
- ・学習規律や生活規律の徹底により、当番活動への取り組みも速くなり、責任を持って活動に取り組む児童が増えた。10の児童はときおり当番活動をしないことがあるが声かけをしながらルールを徹底していきたい。

南小あたりまえ十ヶ条

- 第一条 じぶんからえがおであいさつする
- 第二条 チャイムを守り、時間のけじめをつける
- 第三条 人の話は目を見て聞く
- 第四条 「ありがとう」「ごめんなさい」をはっきり言う
- 第五条 人の傷つくこととはしない、言わない、いじめない
- 第六条 教室からの移動は、むだ口をしない
- 第七条 名前を呼ばれたら大きな声で「ハイ」と返事をする
- 第八条 すみからすみまで、しっかりとそうじをする
- 第九条 ろうかは右側を静かに歩く
- 第十条 よく学び、よく遊び、よく働くみなみっこ

塩山南小児童会



「Q-U検査 考察及び対応」(記入例)

「児童会 あたりまえ十ヶ条」

(研究主任 伊藤 淳司)